

平成 24 年度 緑苑 事業報告

I 概要

1) 利用者動向

- ・特養は、39 名入所者を迎えたが、退所者 19 名(永眠 12 名・長期療養 4 名・自宅引取 3 名)や入院者の変動により稼働率 91.9%に留まった。
- ・短期入所は新規利用者の獲得やリピーターの利用期間の定着の低迷により稼働率 53.1%に留まった。
- ・養護は年度当初 48 名入居であったが、退所者 7 名に対し入居 4 名と入居候補者減の状況が続いた。
- ・自立支援ショートは稼働率 73%(前年比+2.2%)で、熱中症対策や虐待等の一時避難的な利用があった

2) 職員・育成

- ・職員体制は、増設に伴う異動職員や新規採用職員を迎え、年度当初(正職員 51 名、再雇用 2 名、準職員 38 名)であったが、看護職員・介護職員の退職により準職員の雇用で補うこととしたが、充足までには至らなかった。年度末には、常勤職 4 名の退職者があった。

3) 平成 24 年度事業計画についての報告

- ・入居型施設として、利用者の安定した生活の環境を提供した。
- ・地域福祉の拠点施設として、地域包括支援センターを中心に地域ニーズの把握に努めた。

4) 平成 24 年度重点の動き

- ・7 月には、法人創設 65 年の感謝する会をボランティア・地域の方総勢 90 人の方を招き実施した。
- ・法人主導の研修や監事による定期的な事業監査を通し、法令遵守に基づく業務管理体制整備に努めた。

II 事業別動向

区分	成 果	課 題
特養	個々の楽しみを感じられるように、フロア別に利用者に合わせた行事や食事会を実施し、家族も参加しやすい行事設定を行った	過ごし方の充実、安定したサービス提供のための業務見直し、情報共有
短期入所	新たな在宅サービス事業開始にあたり、利用者が滞在中安心安全に過ごせるよう配慮し、徐々に利用が増えた。	情報共有、関連機関との連携強化、質の向上。
養護	「生活のしおり」を見直し、寮生活での共同を促した。状態像の多様化が進み、入居期間の平均 12 年を越えた。	生活支援と介護の両立。「食」の満足度の向上。
自立支援ショート	熱中症予防他、緊急利用を含め、柔軟な受け入れを行った。また養護入所への入り口機能を果たした。	潜在的対象者の発掘。滞在中の過ごし方の提案。
地域包括支援センター	地域高齢者の医療ニーズの相談に対して、適切に対応できた。医療機関との連携、調整についても以前に比ベスムーズに行うことができた。	地域ニーズに合わせた、介護予防事業の展開と幅広い周知活動が必要。
事務	新会計基準移行に関して、財務処理を適正に実施した。	基準に即した円滑な請求業務の継続
管理	施設全体の取組みとして省エネ(節電・節水等)を実施、当初予算を下回る成果があった。	修繕等中长期計画や災害時の事業継続計画の立案

III リスクマネジメント

1) 苦情・第三者評価

- ・苦情 3 件 速やかな解決に至った。第三者評価は 10 月より NPO サービス評価機構が実施した。

2) 感染症等予防・蔓延防止の取組

- ・2 月に 6 名インフル A 型の感染があるも徹底した手洗い等対策により蔓延に至らなかった。

3) 緊急対応

- ・緊急時には、救急車を要請して対応したが受入病院決定まで時間がかかるケースが大半であった。

4) 防災

- ・新しい建物設備での災害時の初動活動訓練とフロア毎の火元責任者による日々点検を実施した。

5) 勤務管理

- ・看護職、介護職の退職等による基準内配置の維持に苦慮した。